新しい道

季節がまた変わる

新しい風に押されまた今日が始まる

昨日までの自分はどんな顔をして歩いていたのだろう

まばゆい光の中

未知なる空気に気後れする自分がいる

でも、ふと新しい道を通ってみようと踏み出してみる

想いもよらない出会いから知らなかったことを知る

どんな時代になっても人が持つその温もりに寄り添えたことで

また歩き出せる気がする

もう一度、心を開いてみよう

若者きずな塾

塾長　狩野　賢

ありがとうって言おう

何だって「当たり前」じゃないよね

なかなか思い通りにいかない日常に

上手く行かない人間関係に

イライラしたりしてしまう

無いものじゃなくて

もう有るものに感謝をしよう

そして「ありがとう」って言おう

有ることが当たり前で

普通じゃなく難しいから

若者きずな塾

塾長　狩野　賢

少しづつでいい

あまりにも世の中のスピードが速いので

置いて行かれるんじゃないかって

不安になったりしたら

思い出そう

人生は誰かとの競争ではなく

自分の小さな日々の積み重ねなのだと

小さな行為の一つひとつを「やった」「できた」と認めよう

自分を肯定できる材料を得ることで

少しづつ自分を認めてそれが「自信」へとつながる

大きな事で無くても

その存在だけでも価値があるんだ

せめて祈ろう、世界中の誰かの笑顔のことを

それは君にも「できる」ことだ

若者きずな塾

塾長　狩野　賢

君にできること

自信はどこから来るのか？

それは「何か」をすることがきっかけになる

どんなに小さなことでもいい

部屋の一部を片付ける

皿を一枚洗う

道端に落ちている空き缶をリサイクルボックスに入れる

道案内をする

誰かの幸せを祈る

「しなかった自分」を嘆くのではなく

ひとつでも「やった」自分を評価しよう

大事な事は他人の評価じゃなく

自分で自分を肯定的に評価することだ

小さな「やった」ことを積み重ねていくことで自信は生まれる

君は何かできる価値ある存在なんだ

若者きずな塾

塾長　狩野　賢

君は「何か」ができる

自分には何もできない

自分には価値がない

そんなふうに思うことがあるだろう

新しい環境に身を置き、新しいことをするとき

挫折や恐怖を感じたりするよね

それは当然さ

その身体反応は生命を守るための「正常」な「機能」なんだから

それを理解しつつ、あえて小さくでも何かをしてみる

今はまだはっきり分からないかもしれない

その小さな行動から見えてくる未来がある

君は「何か」ができる、「何か」が・・・

未知なるドアを開けて、一歩踏み出してみよう

そう、自分に問いかけてみよう

若者きずな塾

塾長　狩野賢

そこにいる君

誰かを「想う」とき、君は「存在」する。

そして、冬の木漏れ日のような温もりを感じることだろう。

ふとした、普通の日常に幸せを実感する。

出会いの一瞬でも、心が触れ合えば、

そこには、必然的な縁さえ覚える。

誰かを想える気持ちの落ち着きは、

きっと君を癒すだろう。

身を焦がすような恋愛物語でなくても、

胸踊る冒険譚でなくても。

ありふれた日常の物語の中に「存在」する

君を感じながら、誰かとの出会いを紡いでいこう。

書き終えた過去ではなく、今から未来の物語を。

若者きずな塾

塾長　狩野賢